

祝・福島県立若松商業高等学校創立110周年

企画・制作／福島民友新聞社営業局



文武両道の伝統を受け継ぎ
勉学にスポーツに努力を惜
まない若商健児

記念式典
日時／10月8日(土)9時30分～
場所／若松商業高等学校 第1体育館
◆生徒入場
◆来賓・表彰者入場
◆創立百十周年記念式典
◆記念講演会
◆来賓・表彰者・実行委員退場

記念講演
日時／10月8日(土)11時～12時
場所／若松商業高等学校 第1体育館
『落語家 三遊亭兼好氏
(本校卒業生)による落語
及びトーク』



伝統を 未来へ



会津若松市の県立若松商業高等学校が今年、創立百十周年を迎えました。同校は明治四十五（一九一二年）五月に、若松市民の要望を担い、市立若松商業学校として開校しました。昭和二十三年（一九四八）に、県立若松商業高等学校へと改称し、以来、名実ともに発展を遂げてきております。

文武両道が良き伝統となつている同校は、時代が求める人材を育成し、優れた人材を輩出。会津の経済界をはじめ幅広い分野で活躍しています。



祝 辞

福島県教育委員会教育長
大沼博文

福島県立若松商業高等学校創立百十周年を、心から祝い申し上げます。

本校は、明治四十五年（一九一二年）五月に福島県若松市立若松商業学校として開校し、昭和二十三年（一九四八年）には福島県立若松商業高等学校となり、その後、会津地域の商業教育の中心として発展し続け、二万二千人を超える卒業生は、全国各地で活躍しております。

本校は、人間教育を重視し、全国有数の特色ある商業高校を目指し、地元企業と連携して商品開発するなど、地域に根ざした学校として、文武両道を実践しております。様々な難関の資格試験において多くの合格者を輩出するとともに、複数の部活動が全国大会に出場するなど、その活躍は多岐にわたります。

生徒の皆さんには、これまで培われてきた伝統を受け継ぎ、本校の人づくり教育を通して、品格、徳性を兼ね備え、未来を担う人材として成長し続けることを期待するとともに、本校の更なる発展を心からお祈り申し上げます。



福島県立若松商業高等学校校長
吉成 広昭

本校は、明治四十五年、地域の商業育成と地域経済の振興・発展の期待とともに、若松市民の熱い要望を担って「若松市立若松商業学校」として開校以来、明治・大正・昭和・平成、そして令和へと世紀を超える歳月を着実に歩んで参りました。この間、幾多の変遷と試練を乗り越えながら会津藩校日新館教育の精神を継承し、「明浄・正直・誠実・剛健」の校訓を柱に、地域唯一の商業教育の基幹校として邁進し、これまで送り出した二万二千六百余名を超える卒業生は、地元経済界をはじめ県内外の各界で大いに活躍されております。

今後ともこれまでの長い歴史と伝統を継承しながら、日々刻々と変化していく現代において、その時々柔軟に対応して新しい伝統の創造に努めるとともに、社会に開かれた教育をなお一層推進し、社会の形成者として必要とされる資質を備えた有為な人材の育成を継続して参ります。

今後とも本校教育の充実・発展のために、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつといたします。



創立百十周年記念事業実行委員長
齋藤 共子

福島県立若松商業高等学校は創立百十周年を迎えました。明治四十五年五月、若松市民の熱い要望を担って、市立若松商業学校として創立されました。その後昭和四四年には、県内二番目の商業高校として以来名実共に発展を遂げてまいりました。

明治 大正、昭和、平成、令和と時代を経る中で、幾多の変遷を重ね、時代の変化に対応しながら、会津地域における商業教育の中心としてその地位を築いてまいりました。その間、本校を巣立った二万余名は、会津地域はもとより、県内並びに全国各地において活躍し、母校の名を高めていくことに誇りに感じるとともに、心強い限りです。

この度の創立百十周年記念事業を遂行するに当たり、同窓会、PTA、学校が三位一体となり実行委員会を組織し、計画、立案、実施へと進めて参りました。若商の教育方針である「文武両道」を実践する現在の生徒たちにとって必要不可欠なトレーニング室を、この度の事業として整備いたしました。最新の機器を導入し、トレーニングに励むことで今以上に活躍してくれることを期待しております。また、老朽化したオイルヒーターを買い替えることで、冬場の全校集会も暖かい環境で行うことができるでしょう。

本来ならば、令和三年に記念式典や記念行事を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大により一年間の延期を余儀なくされました。しかしながら、こうした困難を乗り越えて、本日、開催できまことは、若商ならではのチカラではないでしょうか。

AI化の時代となり、人口減少も加わり急激に変化している社会、そんな中、人間関係も段々希薄になる傾向がありますが、これらも脈々と続く若商の歴史の流れを時代の変化に対応しながら、「若商ならではのチカラ」を発揮し、受け継いで参ります。これもひとえに同窓生、保護者、現職職員、地元企業、市町村をはじめ多くの方々から多大なるご支援ご協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

更なる新しい歴史に向けて、これからも皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。